

(1) 公益財団法人宮崎県体育協会沿革

年・月・日	事 項
大正11.7	「宮崎懸体育協会」設立(本部 宮崎懸図書館内) 市郡に支部を置く 事業を各部に分ける 1 陸上競技部 2 水上運動部 3 武道部 4 野球部 5 庭球部 6 相撲部 7 登山遠足部
昭和17.4	大日本体育協会は 大日本体育会に改組 「宮崎懸体育協会」は「大日本体育会宮崎県支部」となる
昭和21.11	第1回国民体育大会(京都中心)に、本部役員・選手11名が参加 「宮崎県体育協会」発足 初代会長 安中忠雄宮崎県知事就任 初代理事長 平松輝夫氏就任
昭和22.5	第1回県民体育大会。選手約700名参加
昭和24.6	新生「宮崎県体育協会」発足(宮制的体育協会から脱皮) 第2代会長 川越要三県教育委員会委員長就任
昭和25.4	第3代会長 甲斐善平県議会議長就任
昭和28.4	第4代会長 田中長茂宮崎県知事就任
昭和30.4	第2代理事長 恒吉文夫保健体育課長就任
昭和30.6	第5代会長 大原友幸宮崎銀行頭取就任
昭和34.4	第3代理事長 児玉節雄保健体育課長就任
昭和34.6	県体育協会専門部設置(総務、企画運営、普及指導)
昭和37.1	第6代会長 岩切章太郎宮崎交通社長就任
昭和37	日本体育協会に「日本スポーツ少年団本部」発足
昭和39.6	「宮崎県スポーツ少年団本部」発足、本部長 原田 正県体協副会長就任
昭和40.7	7月定例県議会で黒木知事が国体誘致を表明
昭和40.8	「第1回宮崎県スポーツ少年団大会」開催
昭和41.4	第4代理事長 鈴木祐一保健体育課長就任
昭和41.5	「県体育協会表彰規程」が設けられ、県民体育大会開会式で功労者を表彰
昭和42.12	県体育協会評議員会で昭和51年度第31回国体誘致を決議 県議会上に陳情 県議会は昭和51年度第31回国体誘致を決議
昭和43.1	文部省・日体協に第31回国体誘致請願書を提出
昭和44.4	「県体育協会選手強化対策委員会」発足
昭和44.9	第5代理事長 野間 優保健体育課長就任(昭和47より専務理事)
昭和46.4	県体育協会機関紙「宮崎体協」創刊号を発行
昭和46.8	県体育協会選手強化対策委員会、特別選手強化競技団体を指定
昭和47.3.29	「財団法人宮崎県体育協会」として認可される
昭和47.6	第31回国民体育大会誘致申請書を日体協、文部省に提出 九州各県体協長で第31回は佐賀県に内定、宮崎県は第34回大会開催で内定
昭和48.4	県体育協会公認スポーツコーチ、認定スポーツクラブ制度発足 「第34回国民体育大会宮崎県準備委員会」設立
昭和49.6	県民体育大会から独立し、「第1回県高等学校総合体育大会」開催
昭和49.7	第1回「日独スポーツ少年団同時交流事業」指導者1名、団員14名派遣

年・月・日	事 項
昭和49.10	第34回宮崎国体のテーマ・スローガン決定 テーマ「日本のふるさと宮崎国体」 スローガン「伸びる心、伸びる力、伸びる郷土」
昭和50.2	第30回国民体育大会スケート競技、本県初参加
昭和50.8	県体育協会事務局を保健体育課内に移転 宮崎国体事務局を設置
昭和50.6	第34回国民体育大会開催を県議会で議決、開催申請書を日体協、文部省に提出
昭和51.6	日体協理事会で第34回国民体育大会開催が正式に決定 県に第34回国民体育大会実行委員会発足
昭和52	県スポーツ少年団本部は有料登録制度を導入
昭和53	日本スポーツ少年団本部が有料登録制度を導入
昭和53.2	第33回国民体育大会冬季大会スキー競技に初参加
昭和53.4	第6代専務理事 曾原良正保健体育課長就任
昭和53.7	宮崎国体のリハーサル大会として全九州高校総合体育大会を開催
昭和54.2	宮崎県文化賞に準ずる「県スポーツ特別賞」が制定される
昭和54.4	「県スポーツ会館」総合運動公園内に完成
昭和54.9	第34回国民体育大会夏季大会(9月)、秋季大会(10月)を本県で開催 天皇、皇后両杯を獲得 (陸上、バレーボール、体操、馬術、レスリング、バスケットボール、剣道、ソフトボール、ラグビーの9競技で総合優勝)
昭和55.3	第7代会長 島津久厚丸十産業社長就任
昭和55.4	第7代専務理事 栗山 寛保健体育課長就任
昭和56.3	宮崎国体記念第1回宮崎ロードレース大会(30Km)、第1回レディースロードレース大会(20Km)開催
昭和57	宮崎県体育協会旗を制定(デザイン宮副正克) 宮崎県の地形を菱形に表現し、県木フェニックスの葉の形を抽象化したもので色彩は県のシンボルカラーであしらい、上下左右に県体協の向上と躍進を表した。
昭和58.5	置県100年記念事業として第37回県民体育大会炬火リレーを南北の2コースで実施
昭和59.8	県スポーツ少年団創立20周年記念大会開催
昭和60.1	男子30Kmロードレースを中止、宮崎女子ロードレース大会に中学生5Kmを加えた
昭和60.4	県スポーツ振興基金募集開始 第8代専務理事 川畑安雄保健体育課長就任
昭和61.4	「スポーツ振興基金」設立
昭和62.4	第9代専務理事 米丸敏美保健体育課長就任
昭和63.6	県体育協会「スポーツ医・科学委員会」を設置
平成元.5	第34回宮崎国体10周年記念県民体育大会の開催
平成3.4	代10代専務理事 中田 忠保健体育課長就任
平成4.8	「平成4年度全国高等学校総合体育大会」が本県で開催される
平成5	県スポーツ少年団創設30周年記念誌「21世紀にはばたく」を発刊
平成5.4	第11代専務理事 坂本 平保健体育課長就任
平成5.10	「第10回世界ベテランズ陸上競技宮崎大会」が本県で開催される
平成5.12	第8代会長 平山輝男宮崎銀行会長就任

年・月・日	事 項
平成6.1	第15回宮崎女子ロードレース大会より20Kmをハーフマラソンとする
平成6.6	「世界ベテランズ陸上競技選手権宮崎大会記念基金」設立
平成7.4	財団法人宮崎県体育協会事務局・スポーツ少年団本部独立事務所をスポーツ会館に置く
平成8.5	県民体育大会第50回記念大会開催
平成8.4	県議会に「健康スポーツ振興調査特別委員会」が設置される
平成8.11	「全国健康福祉祭みやざき大会」が本県で開催される
平成9.5	県民体育大会開催を、県央、県南、県北3ブロック制とする
平成9.4	第12代専務理事 中馬光久保健体育課副参事就任
平成9.8	第19回全国スポーツ少年団軟式野球交流「宮崎大会」開催
平成11.1	第19回宮崎女子ロードレース大会ハーフマラソンの部のスタート地点をシーガイアオーシャンドーム前とする
平成11.3	第1回日韓交流合宿実施、バレーボール、テニス、ハンドボール、柔道、バスケットボール、陸上競技の選手・指導者155名参加
平成11	国民体育大会第19回九州ブロック大会本県開催
平成12.4	第13代専務理事 安部勝也保健体育課副参事就任 県議会に「スポーツ振興対策調査特別委員会」が設置される
平成13.3	第23回全国スポーツ少年団剣道交流「宮崎大会」開催
平成13.4	第14代専務理事 有嶋三次スポーツ振興課副参事補就任
平成13.5	第9代会長 荒川 隆 宮崎放送会長就任
平成13.6	財団法人宮崎県体育協会創立50周年「宮崎県スポーツ史」発刊
平成13.9	「日本スポーツマスターズ2001宮崎大会」が開催される
平成14.4	第15代専務理事 甲斐藤昭スポーツ振興課副参事就任
平成15.4	第16代専務理事 中馬光久氏就任
平成15.12	日韓交流合宿受入(陸上、柔道、レスリング、ウエイトリフティング、テニス、卓球)
平成16.6	財団法人県体育協会役・職員倫理規程制定
平成16.7	財団法人宮崎県体育協会及び組織団体における倫理に関するガイドライン制定
平成17.6	第17代専務理事 黒木武敏氏 就任
平成18.1	第26回宮崎女子ロードレース大会のスタート地点を宮崎県警察本部前とする
平成18.6	県民体育大会第60回記念大会(さわやか大会と同時期開催)
平成18.10	「元気みやざきみんなでスポーツ事業」開催される
平成19.4	第18代専務理事 甲斐藤昭氏 就任
平成19.6	みやざき県民総合スポーツ祭開催
平成20.7～8	国民体育大会第28回九州ブロック大会本県開催
平成21.4	第19代専務理事 坂口和隆氏 就任
平成21.5	第13回日韓スポーツ交流事業・成人交歓交流派遣(宮崎県選手団:8競技128人)
平成21.6	第10代会長 佐藤勇夫 宮崎銀行会長就任

年・月・日	事 項
平成21.10	「スポレクみやざき2009」が開催される 第13回日韓スポーツ交流事業・成人交歓交流受入(韓国選手団:11競技195人)
平成22.1	第30回宮崎女子ロードレース大会開催 30回をもって宮崎女子ロードレース大会は終了する
平成22.6	みやざき県民総合スポーツ祭は、口蹄疫感染拡大により、総合開会式をはじめ19競技の開催を中止した。他の競技は、日程や会場を調整しながら39競技を実施した
平成22.6	社会人選手、指導者の就職活動等支援の取組開始
平成22.12	「第1回宮崎チャレンジマッチ(バスケットボール)」開催
平成23.3	賛助会員募集開始
平成23.7	「第2回宮崎チャレンジマッチ(ハンドボール)」開催
平成23.7	公益財団法人日本体育協会創設100周年記念式典において本会役員経験者26名が表彰された。 同式典で「スポーツ宣言日本」を採択した。
平成24.2	「第1回宮崎県エンジョイスポーツフェスティバル」開催
平成24.3	宮崎県スポーツ推進基金に本会基金から3億1600万円寄附した。
平成24.4	財団法人宮崎県体育協会解散、公益財団法人宮崎県体育協会設立
平成24.4	宮崎県スポーツ推進基金事業として、宮崎県体育協会認定アスレティックトレーナー養成講習会、 競技スポーツ特別強化対策事業、スポーツメディカルサポート事業等開始
平成24.6	本会を当事者とするスポーツ紛争を、日本スポーツ仲裁機構の仲裁に委ねる。
平成24.7	「第3回宮崎チャレンジマッチ(ラグビーフットボール)」開催
平成24.10	「第2回宮崎県エンジョイスポーツフェスティバル」開催
平成24.12	公益財団法人宮崎県体育協会事務局を県都市公園管理事務所2Fに移転した。
平成25.6	第20代専務理事 川崎重雄氏 就任
平成25.6	「第4回宮崎チャレンジマッチ(ソフトボール)」開催
平成25.10	「第3回宮崎県エンジョイスポーツフェスティバル」開催
平成26.6	「第5回宮崎チャレンジマッチ(剣道・なぎなた)」開催
平成26.10	「第69回長崎がんばらんば国体」において、県外開催では初となる天皇杯順位19位
平成26.10	「第4回宮崎県エンジョイスポーツフェスティバル」開催
平成27.1	臨時理事会において、平成38年度第81回国民体育大会の本県開催招致を全会一致で決定
平成27.4	県や県教委と一緒に、文部科学省などに本県国体開催の要望書を提出
平成27.7	第81回国民体育大会と第26回全国障害者スポーツ大会の本県開催が日本体育協会理事会で内々定
平成27.6	「第6回宮崎チャレンジマッチ(バレーボール)」開催
平成27.10	「第5回宮崎県エンジョイスポーツフェスティバル」開催
平成28.5	「宮崎ワールドアスリート1期生認定式」開催
平成28.6	「第7回宮崎チャレンジマッチ(ボクシング)」開催
平成28.7～8	国民体育大会第36回九州ブロック大会本県開催
平成28.9	「第6回宮崎県エンジョイスポーツフェスティバル」開催
平成29.6	「第8回宮崎チャレンジマッチ(空手道)」開催
平成29.6	第21代専務理事 佐多裕之氏 就任
平成29.10	「第7回宮崎県エンジョイスポーツフェスティバル」開催
平成30.6	「第9回宮崎チャレンジマッチ(テニス)」開催
平成30.6	第11代会長 春山豪志 株式会社宮崎放送会長就任
令和元.6	「第10回宮崎チャレンジマッチ(バドミントン)」開催

年・月・日	事 項
令和2. 3	コロナウィルス対応 評議員会 書面決議
令和2. 4	公益財団法人 宮崎県スポーツ協会 名称変更